

第3回 アーバンデザインセミナー レポート

1 セミナー概要

日時：2月3日（土）13時00分

場所：UDCBK

テーマ：「脱炭素社会」×「まちづくり」

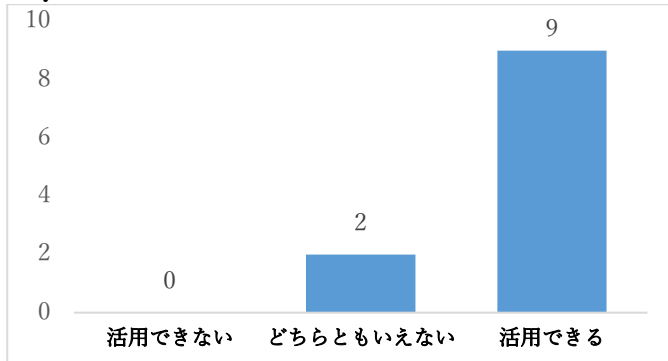
講師：立命館大学経営学部 依田祐一 教授

参加者：20名

○普段、聞けないようなお話が聞けて、今の草津市の農業について知らなかった事ばかりで、もっと知りたいと思いました。

2) 活用について

<Q:セミナーの内容はまちづくりや私生活で活かせるものでしたか>



※無回答が1名いたため合計が11名となる

<セミナーの様子>



2 当日の様子

セミナーの前半は、導入として、草津市温暖化対策室津田係長から草津市のゼロカーボンシティに向けた取組について紹介があり、その後、依田教授より『バイオ炭の炭素貯留によるカーボンマイナスに向けた社会実装』について講演いただき、後半は、草津市内における地域課題とバイオ炭の技術を活用した解決策についてグループディスカッションが行われた。

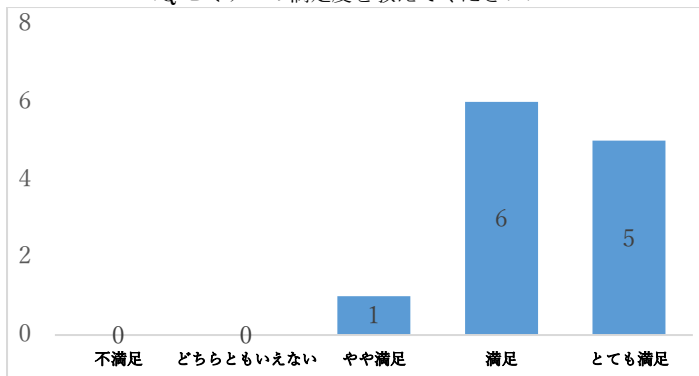
※『脱炭素社会』

温室効果ガスの排出を減らし、2050年までに排出量を全体としてゼロにすることを目指した社会のことで、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から植林、森林管理、バイオ炭活用などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを目標にしている。

3 アンケート結果 <アンケート回答 12名>

1) 満足度

<Q:セミナーの満足度を教えてください>



【コメント】

- バイオ炭の価値について理解できたので。
- 環境問題に興味関心が持て、大変参考になりました。
- 色々な世代の方の意見を聞く良い機会となりました。
- 改めて集まって話すことによって問題の具体化がみえる。
- 自分とは異なる世代の方と実際の問題を知ることのできる機関ができたため。

【コメント】

■活用できる

- 駅前(街)と農業地域とのコミュニケーションの重要性(魅力のある農業地域作りが必要)。
- 農業の推進と脱炭素のまちづくりは関連することが大きい。
- 現在バイオ炭を自社生産しており、付加価値をつけて今後農産物を生産していけると思いました。
- スマート農業や低成分肥料の推進を、脱炭素やみどりの基本計画の実現と絡めたかたちで新たな補助メニューを検討したい。
- 現実的な問題を知ることができた。
- 自身の活動内容が今日のテーマと一緒だったから。
- このような場(コミュニケーションが出る場)は多様な人達の考えを交わすのに重要だと思いました。

■どちらともいえない

- 現時点では具体的なところには至っていません。今後活かしていければと思っています。
- バイオ炭を直接自分で使うのは難しいと思うからです。

4 まとめ

今回のセミナーは農業者の出席が多く、ワークショップでは、草津市内における駅周辺の都市エリアと農地が集積している郊外エリアとの間に生活様式や住民のバックグラウンドに大きな相違があることが指摘されていた。また、世代の違う人の意見が聞けて有意義だったという声も多く、多世代が交流する機会の重要性を改めて確認することができた。

コンパクトシティと言われる草津市においても都市と郊外のギャップが存在し、産学公民の多様な主体との連携だけでなく、エリア的・年齢的にも多様な主体が連携・交流できる機会や場所に対するニーズが高まっていると感じられた。

UDCBKでは、南草津駅前を中心にまちづくりの検討を進めているところであるが、UDCBKの連携拠点としての機能を活かしながら、南草津駅前のにぎわいを郊外エリアにも波及させるような視点を持ってまちづくりを進める必要があると考えられる。